

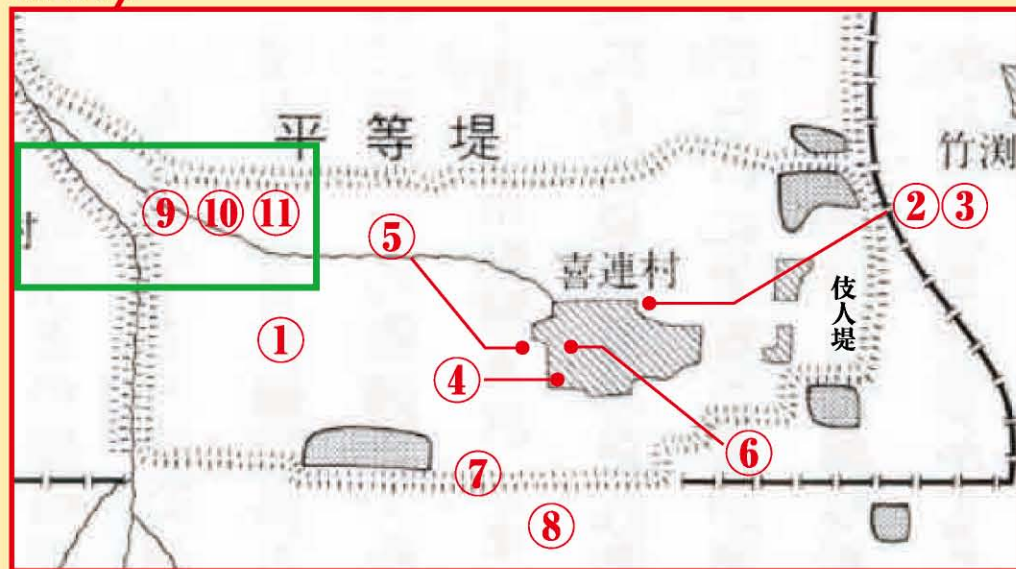
W1762×H1112 案内版⑥ 喜連の古墳と古代の土木工事

喜連の古墳と古代の土木工事

平野郷町附近の圍堤



拡大図



①大塚 ②松山 喜連の大古墳

- ① 湿田に字大塚が白く浮かんでいる。長径約150mの前方後円墳と考えられる。
- ② 松山は水路の位置などから同じく前方後円墳の可能性が高い。氏神天神如願寺の貞享年中(1684~1688)古図に「松林山、大松、大松…」とあり、
- ③ 字松山時代の楯原神社地は周囲の田圃より2mほど高く戦前まで古墳の痕跡を残していた。いずれも近世初期の新田開発で削られたと思われる。

『新修大阪市史』に作図
『大阪中部』明治18年 陸地測量部

③松山の楯原神社

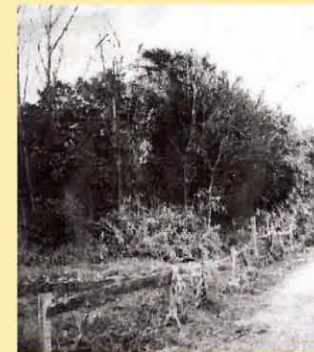
楯原神社は江戸時代松山にあり、立原宮、立原瀧神、立原大明神などと呼ばれた。写真の鳥居は現在の楯原神社の西側に移設されている。



尻矢口から今の喜連幼稚園を望む 左は天神の大楠 奥に如願寺

④浮山・浮山城

④浮山、⑤垣内など戦後まであった塚・古墳地名を10余り数える。



⑤平田の垣内



⑥広住塚

現存する唯一の塚地。昭和20年代は100坪ほどの円錐形の地形だった。応神天皇妃息長真若中姫の墓と伝えられる。



息長真若中女
広住塚にあった近世の石標が楯原神社に移設されている。

⑦伎人堤(長居公園道路北半) ⑧息長河(工事中の同南半)

「かつらかい」は『続日本紀』などに載る河内摂津境の伎人堤。根幅12mの巨大な堤を左図の→から←まで約5km渡来人の土木技術で築いた。起工地に唐下(伎人)との渡来入字名を残す。瓜破台地からの洪水を防ぎ、谷水を今川方面に流した息長河開削と一体の工事と考えられる。(別パネル「縄文時代から奈良時代の喜連」参照)
伎人堤敷と息長河川敷を活用して長居公園道路、昭和55年には地下鉄が開通した。



削られた「かつらかい」伎人堤と息長河(右側の黒い部分)

⑨字楯原附近 ⑩水道の川 ⑪平等堤



東住吉高校南側 昭和30年頃

喜連は北西部が最も低く、平等堤を歩くと目の下に葦が茂っていた。古代水郷の跡である。堤際の喜連最北西端には痕跡化したツブレ池が写っている。(別パネル「縄文時代から奈良時代の喜連」参照) ⑨式内楯原神社の旧地字楯原は湿地帯に突き出す岬状の土地で、古代楯原神社が難波宮との水運流通を握る管庁だったことを窺わせる。⑩水道の川は享保期に整備された喜連中の灌漑水を今川に吐かす水路であるが、戦後まで大雨の時には大樋を閉めに走っていた。今川が逆流し一帯が水郷にもどってしまうからである。⑪平等堤は平野郷が平等院の荘園だった鎌倉時代後半から喜連との境に築かれた。この辺りの堤の高さがよくわかる。